

令和7年度 長野保健医療大学 事業報告

I 法人の概要

(1) 基本情報

法人の名称	学校法人 四徳学園	
主たる事務所	住所	〒381-2227 長野県長野市川中島町今井原11-1
	電話番号	026(283)6111
	FAX番号	026(283)6122
	HPアドレス	https://shitoku.ac.jp/

(2) 建学の精神・理念

学校法人四徳学園は、「徳風洽四海」（徳風四海にあまねく）の精神を基本として豊かな人間性と医療に関する高い知識・技術を備えた人材を養成することを理念とする。

長野保健医療大学は、「四徳」を学び、他者に共感し、自己研鑽に励むことにより、人を慈しむ心である「仁心」を醸成・涵養し、保健・医療・福祉の専門職として必要かつ十分な知識と技能を修得することにより、「妙術」を目指し生涯にわたり修練と研鑽を重ねる基礎を身に着けた人材の育成を教育理念とする。

「徳風四海に洽く」

学生が会得する知識や技能を、すべからく人類愛に基づき世界（四海）に広める気概を持って社会に貢献する

「仁心妙術」

人を慈しむ豊かな人間性と医療に関する高い知識と技能を備える

(3) 学校法人の沿革

平成 11 (1999) 年 6 月	長野医療技術専門学校設立発起人会開催
平成 12 (2000) 年 4 月	学校設立準備室を開設
平成 13 (2001) 年 1 月	学校法人四徳学園設立認可 長野医療技術専門学校設置認可
平成 13 (2001) 年 4 月	長野医療技術専門学校開校
平成 17 (2005) 年 9 月	長野医療技術専門学校附属リハビリテーションクリニック 開院
平成 17 (2005) 年 12 月	大学院入学資格認定 高度専門士の称号付与認定
平成 26 (2014) 年 10 月	長野保健医療大学設置認可
平成 27 (2015) 年 4 月	長野保健医療大学開学 保健科学部リハビリテーション学科開設
平成 29 (2017) 年 4 月	長野市立川中島保育園運営受託
平成 30 (2018) 年 3 月	長野医療技術専門学校閉校
平成 31 (2019) 年 3 月	長野保健医療大学に看護学部看護学科を開設
平成 31 (2019) 年 4 月	川中島保育園施設移管 (私立保育所として運営開始)
令和 2 (2020) 年 10 月	長野保健医療大学附属リハビリテーションクリニックを長野保健医療 大学附属整形外科リハビリクリニックに名称変更
令和 3 (2021) 年 4 月	長野保健医療大学に大学院保健学研究科を開設
令和 4 (2022) 年 9 月	校歌制定
令和 5 (2023) 年 3 月	川中島保育園閉園
令和 5 (2023) 年 4 月	幼保連携型認定こども園川中島こども園開園

(4) 設置する学校・学部・学科等

【長野保健医療大学】

大学院保健学研究科保健学専攻 (修士課程)

保健科学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻・作業療法学専攻

看護学部看護学科

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和7年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
長野保健医療大学 保健科学部	80	87	320	332
看護学部	80	86	320	309
学部 計	160	173	640	641
長野保健医療大学 大学院	8	1	16	7
大学 総計	168	174	656	648

(6) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	7年度	6年度	5年度	4年度	3年度
長野保健医療大学	100.2%	103.8%	105.0%	107.7%	109.8%
大学院	43.8%	43.8%	50.0%	43.8%	62.5%

(7) 役員の概要 (令和8年4月1日現在)

理事 定数5名以上10名以内 現員8名

監事 定数2名 現員2名

区分	氏名	就任年月日	勤務形態	主な現職
理事長	北澤 竜二	平成24年3月24日 (理事長就任： 令和7年6月25日)	常勤	(学) 四徳学園理事長
理事	笠原 甲一	平成13年2月15日	非常勤	長野電鉄(株)取締役会長
理事	高澤 通泰	令和3年4月1日	非常勤	高澤産業(株)取締役会長
理事	田中 英弥	平成31年1月21日	非常勤	第一法規(株)代表取締役社長
理事	田中 榮司	令和5年7月1日	常勤	長野保健医療大学学長
理事	金物 壽久	令和2年10月1日	常勤	大学附属整形外科リハビリクリニック院長
理事	岩倉 宏明	令和7年6月25日	常勤	川中島こども園園長
理事	小野 浩美	令和8年4月1日	常勤	(学) 四徳学園常務理事
監事	北澤 英男	平成13年2月15日	非常勤	著述業
監事	内田 雄治	令和3年4月1日	非常勤	元 長野県代表監査委員

(8) 評議員の概要 (令和8年4月1日現在)

定数6名以上12名以内 現員12名

区分	氏名	就任年月	主な現職
評議員	岩谷 力	平成27年4月1日	前 長野保健医療大学学長
評議員	西村 博行	平成22年4月1日	あんずの里クリニック院長
評議員	藤本 功	平成21年3月20日	さくら税理士法人 管理統括
評議員	酒井 登	平成29年5月30日	前 長野県シルバー人材センター連合会長
評議員	田原 幸雄	平成29年5月30日	元 川中島町住民自治協議会顧問
評議員	北澤晋一郎	平成25年3月23日	社会福祉法人四徳会グリーンヒル事務局長
評議員	越 正至	令和7年6月25日	川中島町住民自治協議会事務局長
評議員	俵 伊吹	令和7年6月25日	長野市民病院 理学療法士
評議員	高本 雅哉	令和7年6月25日	長野保健医療大学副学長兼研究科長
評議員	大井 直往	令和6年5月29日	長野保健医療大学副学長兼保健科学部長
評議員	松本あつ子	令和5年5月31日	長野保健医療大学副学長兼看護部長
評議員	齋藤 直人	令和7年6月25日	長野保健医療大学副学長兼研究センター長

(9) 会計監査人の概要 (令和8年3月31日現在)

定数1名 現員1名

名称又は氏名	海南監査法人
住所	東京都新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル20階
就任年月日	令和7年6月25日

(10) 理事選任機関の概要

学校法人四徳学園寄附行為第7条の規定により、本法人の理事選任機関は評議員会である。

(11) 教職員の概要 (令和7年5月1日現在)

【教員数】

大学		性別		年齢構成						
		人数計	男	女	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
専任教員	学長	1	1							1
	副学長	5	4	1					3	2
	教授	13	6	7				4	9	
	准教授	9	2	7			1	4	4	
	講師	9	6	3		2	2	3	2	
	助教	12	6	6		3	3	3	3	
	助手	3	1	2		1	1		1	
	計	52	26	26	0	6	7	14	22	3
兼任教員		120								

基準 大学全体10人、保健科学部14人、看護学部12人 計36人
(教授の基準 18人)

基準36人に対して52人
(教授の基準18人に対して19人(学長、副学長を含む))

専任教員一人当たりの学生数 (全学の基準) 17.7人 640人÷36人
 専任教員一人当たりの学生数 (保健科学部) 12.8人
 専任教員一人当たりの学生数 (看護学部) 12.4人

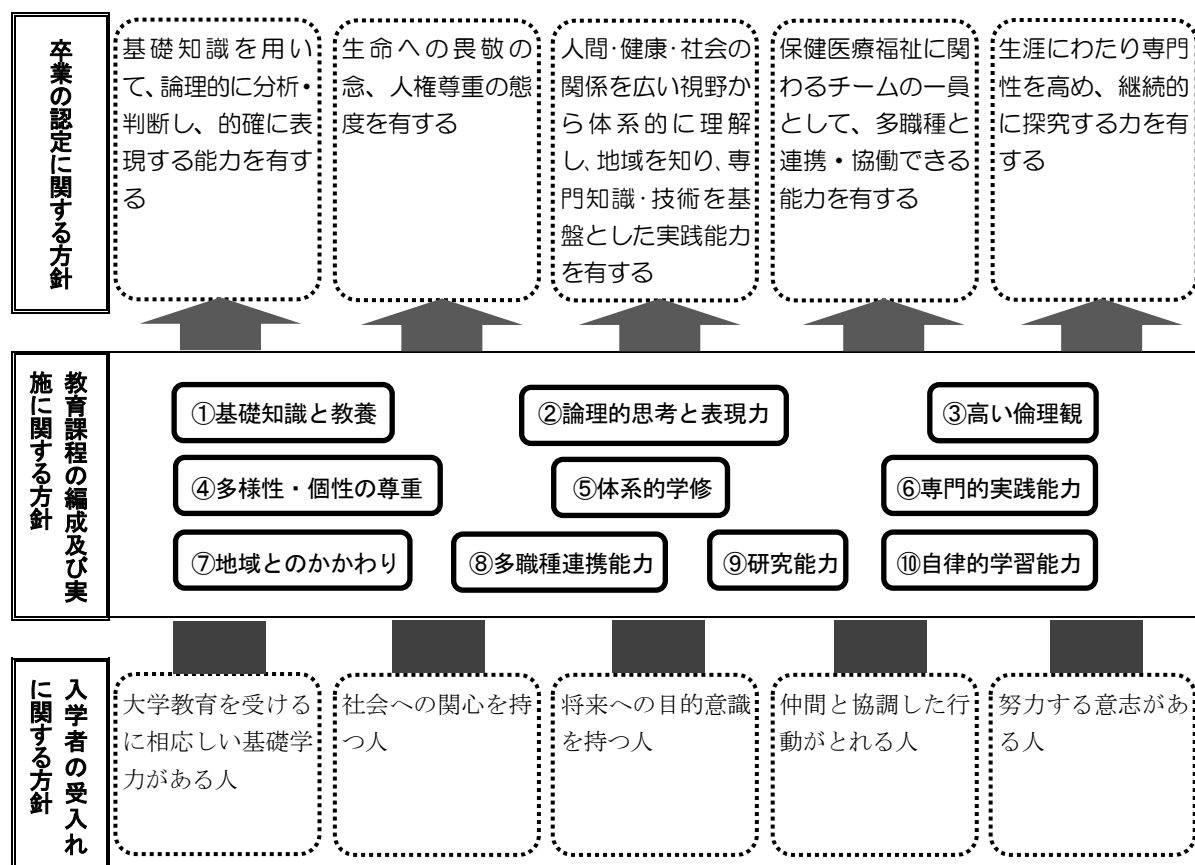
大学院		性別		年齢構成					
		人数計	男	女	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
専任教員	研究科長	1	1					1	
	研究指導教員	11	8	3		1	2	7	1
	研究指導補助教員								
	計	12	9	3	0	1	2	8	1
	科目担当教員	8							
兼任教員		15	基準 12人 (研究指導教員の基準 6人)						

【職員数】 26人

II 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

- ・ 「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」及び「入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）」



(2) 中期計画に基づく事業の進捗・達成状況

長野保健医療大学では、令和7年度を始期とする5年間の基本的な方向性を示すために、第2期中期計画（2025年度～2029年度）を策定した。令和7年度に実施した主な事業について、中期計画の項目に従って、以下のとおり整理した。

第1 仁心妙術を修得させるための教育力・研究力の向上

1-1 「選ばれる」大学となるための教育環境の整備

- ・ 大学院では、学部教授、准教授の8割が大学院担当教員となるなど体制は整いつつあり、分野別のバランスも改善している。引き続き、資格認定基準を満たす学部教員の審査を進め学内での研究指導体制を維持するとともに、専門性が高い研究課題への対応として、特任教授が研究指導を補佐する体制を確立する。

- ・ 教養科目の共通化、専門基礎科目の点検及び多職種連携教育（IPE）関連科目の統合の3点を中心に、「新カリキュラム検討委員会」での議論を踏まえ、カリキュラムの見直しを行い、学則変更及び変更承認申請に対する文部科学省の承認を得て、8年度から新たなカリキュラムを施行した。
- ・ IPE関連科目は、全教員が携わる最重要科目であるとの認識のもと、各科目とも予定どおり円滑に実施された。なお、8年度からは、IPE関連科目を両学部共通の専門科目として位置付け、両学部共同開催による主要科目に位置付けている。
- ・ 近年のDX化の流れを受け、授業資料の電子化を導入することで授業内容のさらなる充実、教員の業務効率化及びコスト削減と業務軽減を目指し、Microsoft365 Teamsの利活用を促すために、授業資料の電子化要領の作成及び非常勤講師に対する授業資料の電子化の案内を行った。

・ 卒業・学位授与の状況

区 分	授与者数
学士（理学療法学）	43名
学士（作業療法学）	38名
学士（看護学）	71名
学部合計	152名
修士（保健学）	4名

・ 国家試験の結果

区 分	実施日	受験者数	合格者数	合格率	全国の合格率
第61回理学療法士	R8.2.23	43	43	100.0%	89.7%
第61回作業療法士	R8.2.23	37	36	97.3%	91.2%
第115回看護師	R8.2.15	71	69	97.2%	88.3%
第112回保健師	R8.2.13	25	23	92.0%	87.1%

- ・ 理学療法学専攻は、目標値である合格率100%を達成し、作業療法学専攻は目標値である100%には届かなかったものの、不合格者1名という結果は、受験生、保護者からは一定の評価を得られるものとする。常に100%の合格率を獲得できるよう、個々の学生に合わせたグループ学修や個人学修の実施及び模擬試験結果などを踏まえた個別面談などの学生支援を継続する。

- 看護学科では、教員全員で国家試験対策に取り組んだ結果、前年度までの合格率を大幅に上回り、県内大学では信州大学に次ぐ2番目に高い合格率となった。引き続き高い合格率を維持することができるよう、入学時から国家試験を意識づけるとともに、補講内容の充実等支援内容についてさらに充実を図るなど、適切に対応していく。

1-2 教員研究活動の充実と教職員の資質の向上

- 看護学部において、大学と学部の理念に基づく円滑な運営を図るため、看護学部運営委員会を設置し月1回開催した。また、看護学部教員の共通理解と協力体制の確立を図るため、学科会議において活発な議論を行った。保健科学部においても、専攻ごとに専攻会議を開催し、専攻内での情報共有や教育課題等に対する意見交換等を実施した。
- 教職員の能力・資質向上のため各種研修会を開催し、多くの教職員が参加している。また、授業評価アンケートを行い、教員へのフィードバックにより教育環境の改善・向上に努めた。

実施日	内 容	参加人数
4月1日	学長講話	65人
5月21日	ハラスメント講習会	59人
6月25日	臨床実習システムの有用性と課題	42人
7月9日	教育の内部質保証の仕組みと取り組み	55人
2月4日	心の健康面に問題を抱える学生への対応	59人
3月18日	事業報告会	62人

- 大学院生及び大学院修了生が、自らの研究内容の発表や他者の研究内容を理解する機会とするため、事業報告会への積極的な参加を促している。
- 科学研究費助成事業、厚生労働行政推進調査事業、企業との共同研究及び財団からの助成金事業として、本学教員を研究代表者とする研究7件、研究分担者とする研究2件に対して、総額988万円余が交付された。また、8年度の科研費募集に対する申請件数は11件で、前年度の3件から大幅に伸び、うち4件が採択され、7件が不採択となった。
- 学内公募研究費については、7年度に新規3件、134万円余を採択した。
- 教員の研究成果の発表の場として、毎年編纂している本学の紀要第11巻について、9月から11月にかけて原稿の募集を行い、合計4編の応募があった。また、本学教員の公的研究費の獲得状況や論文、講演等の業績を一覧表にまとめ、紀要第11巻に掲載することとした。

- ・ 研究成果のリポジトリでの公開を100%にするため、発表論文の把握方法とリポジトリに公開するためのデータ取得方法を確認し、論文の収集を開始した。また、大学院生2名分の研究データを研究センターにおいて管理することとした。併せて全ての教員に、研究倫理や研究データ管理ポリシーの意義を理解してもらうため、講習会を開催した。

第2 地域との協働活動の活性化による社会への貢献

2-1 地域をフィールドとして行う活動の実践

- ・ 連携協定を締結している川中島町住民自治協議会との共催で、高齢者を対象とした体力測定会を春秋の2回開催した。地域の高齢者にとっては自らの健康の維持増進のための機会として好評をいただいているが、ボランティアとして参加する学生にとっても、地域住民との交流を通じて、医療人に必要な人間性やコミュニケーションを学ぶ良い機会となっている。

実施日	参加人数
5月24日	59名
10月25日	47名

- ・ 飯山市から高齢者の健康データの提供を受け、生活機能、運動機能の低下等に関するデータの解析、結果のフィードバックを行うための報告会を、飯山市役所において7月22日及び2月9日の2回開催し、意見交換を行った。本学からは延べ5名の教員が参加した。

2-2 行政や各種団体との連携による社会貢献活動

- ・ 長野市立長野高等学校との連携協定に基づき、高校での探究活動への参加と本学の入学前教育を実施した。探究活動では、本学教員による講義とグループ活動に対する生徒の満足度は高く、生徒の進学に向けた大きなモチベーションとなった。

	内 容	対象者	担当講師
探 究 活 動	第1クール 医療統計 第2クール 生理学 第3クール 整形外科学	医療系学校への進学 予定者	本学教員

- ・ 入学前教育は、7年の年内入試で合格した学生を対象に、基礎学力と大学生活へのレディネス向上を目的に実施した。参加した学生は、高校での学習の復習とともに大学の授業の一端に触れる機会を得るとともに、新たなクラスメートとの事前の交流の場ともなった。

内 容		対 象 者	担当講師
入学前教育	第1回 国語、英語 第2回 数学物理(保健科学部) 理科基礎(看護学部)、生物	本学への入学予定者	市立長野高校教員 本学教員

- 地方自治体や住民自治組織等との連携協定の締結と、協定に基づく事業展開を通じて、地域における本学の認知度向上と、地域住民の健康増進など社会貢献活動を積極的に実施した。

連携先	事 業	備 考
長 野 市	4/25 放課後子ども総合プランアドバイザー説明会	学生4名参加
長 野 市	5/16 教育センター研修会講師	本学教員による講演
長 野 市	8/19 市長と学生の意見交換会	学生2名参加
長 野 市	10/25 体力・健康チェックキャラバン (信更公民館)	学生10名、教員2名参加
長野県議会	4月・8月 県議会広報誌配付	—

- 長野刑務所との連携協定により、受刑者への作業療法的サポートに関する支援や機能向上作業をテーマとする共同研究等を進めているほか、本学学生の刑務所での職場体験や刑務所で開催される矯正展への学生の参加など、様々な連携事業を実施した。
- ㈱ボアールス長野フットサルクラブと、地域密着を理念としたスポーツ活動の活性化や人材育成を目的に連携協定を締結し、毎年選手のフィジカルチェックを本学で実施している。

【協定締結状況】

長野県長野市 長野県飯山市

長野県議会 長野刑務所

川中島町住民自治協議会 長野市立長野高等学校

長野県内11大学 (高等教育コンソーシアム信州)

一般社団法人サキベジ推進協議会

社会福祉法人信濃整肢療護園 (稲荷山医療福祉センター)

ながの観光コンベンションビューロー

㈱ボアールス長野フットサルクラブ【令和7年度締結】

第3 充実した学生生活への支援

3-1 学生生活に対する支援の充実

- ・ 学生自身が、本学での学生生活の改善に関与できるよう、学生会役員と面談を行い、クラスマッチ、学園祭等のイベント開催を支援した。
- ・ 学生に対して学生満足度・学生生活実態調査を実施し、アンケート結果からは本学における学修や学生生活について、概ね高い満足度を得ていることが確認できた。
- ・ 定期健康診断の実施と、要観察者等へのフォローとして再検査等を行い、学生の健康に関する情報把握と支援を実施した。禁煙教育として1年生への講話のほか、全学年に禁煙対策情報を発信したが、一部学生のルール違反が改善されなかったため、継続的に実施する。
- ・ 入学金免除制度や特別奨学生制度の対象を拡大するなど、独自の奨学金制度により入学者数の増加に結びつけられるよう、制度の改善を行った。引き続き奨学金制度の充実について研究を進めるとともに、入試制度の変更も視野に取り組んでいく。
- ・ 学生の日頃の悩みや相談事に対応するために学生相談室を設置しており、入学式後の保護者説明会においてもその周知を図っている。
- ・ 「自分も相手も孤立させないゲートキーパー」というテーマで、大学生のためのゲートキーパー養成講座を、高等教育コンソーシアム信州の協力のもと2月18日に開催し、54名の学生が参加した。

3-2 同窓生への積極的な支援

- ・ 本学同窓会である桃李会とともに卒業生の活躍を紹介・学ぶ場、新たな知識を得る場、卒後リカレント教育の場となる生涯学習講座を開催した。7年度は初めて海外(モンゴル・エルサルバドル)で活動する卒業生(作業療法士)が現地から講義を行い、知見を広めることができた。また、起業し活躍する講師からの講演や臨床と研究、執筆活動に関する講義など、内容は多岐に渡った。
- ・ 生涯学習講座への参加人数を増やすため、在学生のうちから同窓会活動を知る機会をつくる等、今後の運営方法についてさらに検討する。

第4 情報の開示と効果的な発信

4-1 情報公開と広報活動の推進

- ・ 7年度のオープンキャンパスとして、来学型で6回実施し、前年を101人上回る1,277人の参加者を得ることができた。

- 学部の入学試験結果は別紙のとおりとなった。募集活動については、フェイスブックやインスタグラムなどのSNSを活用した広報やテレビCM、長野駅前ビジョン、しなの鉄道車内ステッカーなど幅広い広報活動を行った結果、全試験区分の出願総数が、対前年比 112.8%と大幅に増加した。
- オープンキャンパス参加者数が対前年比 106%と伸びた結果、保健科学部、看護学部ともに出願者数が増加（保健科学部は前年比 109%、看護学部は前年比 117%）したことに加えて、本学の認知度向上の影響もあって、最終的な8年度の入学者数は、理学療法学専攻、作業療法学専攻及び看護学科全てで定員を上回る入学者数を確保できた。次年度以降も、引き続き各種の広報活動を駆使し、本学の特徴や優位性、魅力を発信し、意欲ある受験生、入学生の確保につなげたい。
- 大学院は入学定員8名に対して2名の入学となり、広報活動の十分な成果は得られなかった。4年度に制定した奨学金制度により、本学卒業生が入学した場合の授業料は国公立大学院と遜色ない水準になるため、学部生等への積極的な広報を展開し、多くの学生募集に繋げる。
- 小中学生への職業理解教育として、長野市のモデル事業（みらいハッケンプロジェクト）を活用した体験活動及び中学生の職場体験の受け入れを学園祭に併せて実施し、4組16名の参加を得た。
- 長野市立川中島中学校での出前授業を7月14日に実施した。また10月29日に長野市立東部中学校で行われたキャリアフェスティバルに看護学部が参加し、学部紹介や職業紹介等を行い、将来の進路の参考となるような機会を提供することができた。

第5 大学運営におけるガバナンスの確立と経営基盤の安定・強化

5-1 大学運営におけるPDCAサイクルの確立

- 6年度に、組織が守るべき行動規範を示した統治指針である本学のガバナンスコードを策定したが、私立学校法の改正を踏まえて内容を見直し、9月25日開催の理事会において改訂を行った。また、実施状況の点検を行い、点検結果報告書とともにホームページ上で公開した。
- 自己点検評価の客観性を担保するため、学外者に参画いただけるような制度への改善を行い、一般社団法人長野県理学療法士会のご協力を得て、客観的な視点からの意見聴取を行う体制を整えた。
- 教育・研究に関する各種データや資料の収集、分析を行い、学修成果を適切に点検、評価し、教育・研究内容の改善を図るための基本方針となるアセスメント・ポリシーについて、教学マネジメントワーキンググループにて検討を行い、8年度新たに設置する教学マネジメント会議において、審議・決定することとなった。
- 情報漏洩に対するセキュリティ対策について、万が一の事故発生に備えサイバーセキュリティ保険に新規加入するとともに、本学の情報セキュリティに関する現状把握、リスク分析を実施した。

5-2 経営基盤の安定・強化

- ・ 本学が、継続的に高等教育修学支援制度の対象となるよう、機関要件の一つである事業活動収支の経常収支差額の改善に資するため、授業資料の電子化や、学生に対する実習補助制度の見直し等の措置により、引き続き収支の改善に努めた。
- ・ 紙ベース・手作業で実施している旅費関係の業務を手始めに、新たに経費精算システムを導入することにより、業務の効率化を実現した。

Ⅲ 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

- ・令和5年度に南館校舎購入に伴う借入を行ったため、総資産に対する総負債の割合が高まっているが（本年度36.9%）、財政は安定している状態である。積立率も本年度は大幅に上昇し65.9%となった。経年比較は以下のとおりである。

単位：(百万円)					
科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
固定資産	1,968	2,401	3,421	3,251	3,102
流動資産	501	421	483	664	763
資産の部合計	2,469	2,822	3,904	3,915	3,865
固定負債	159	267	1,237	1,154	1,073
流動負債	284	299	337	368	352
負債の部合計	443	566	1,575	1,521	1,425
基本金	2,715	3,104	3,341	3,455	3,560
繰越収支差額	△ 689	△ 848	△ 1,012	△ 1,061	△ 1,120
純資産の部	2,026	2,256	2,329	2,394	2,440
負債及び純資産の部合計	2,469	2,822	3,904	3,915	3,865

イ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
積立率	45.6	36.0	35.6	43.2	65.9

② 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

- ・教育活動収支差額、経常収支差額、基本金組入前当年度収支差額はどれもプラスであり、経常的収支・毎年度収支は共に安定している。令和5年度に南館校舎購入に伴う設備活動により基本金組入を実施したため、翌年度繰越収支差額がマイナスの状態が増加しており、長期的な収支均衡の改善を行っていく。経年比較は以下のとおりである。

単位：(百万円)						
科目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	918	1,029	1,016	1,000	977
	手数料	14	11	11	8	12
	寄付金	1	15	13	11	11
	経常費等補助金	89	88	279	303	417
	付随事業収入	9	1	0	0	0
	雑収入	7	19	14	18	7
	教育活動収入計	1,037	1,163	1,334	1,341	1,425

	事業活動支出の部					
	人件費	543	598	722	736	740
	教育研究経費	289	453	424	433	505
	管理経費	189	126	115	83	87
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	1,022	1,177	1,261	1,252	1,333
	教育活動収支差額	16	△ 14	73	89	92
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	0	0	0	1	2
	その他の教育活動外収入	60	15	0	0	0
	教育活動外収入計	60	15	0	1	2
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	1	1	15	18	16
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	1	1	15	18	17
教育活動外収支差額	59	14	△ 15	△ 17	△ 15	
経常収支差額		75	0	58	72	78
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	13	231	11	12	3
	特別収入計	13	231	11	12	3
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	9	1	0	19	3
	その他の特別支出	0	0	0	1	32
	特別支出計	9	1	0	19	36
特別収支差額	5	230	11	△ 7	△ 32	
基本金組入前当年度収支差額		79	230	68	65	46
基本金組入額合計		△ 48	△ 390	△ 237	△ 114	△ 105
当年度収支差額		31	△ 159	△ 168	△ 49	△ 60
前年度繰越収支差額		△ 720	△ 689	△ 844	△1,012	△1,061
基本金取崩額		0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		△ 689	△ 848	△1,012	△1,061	△1,120
(参考)						
事業活動収入計		1,110	1,409	1,345	1,354	1,431
事業活動支出計		1,031	1,179	1,277	1,289	1,385

イ)財務比率の経年比較

(単位：%)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費比率	49.5	50.8	54.1	54.9	51.8
経費比率	43.6	49.2	40.4	38.4	41.5
経常収支差額比率	6.8	0.0	4.3	5.4	5.5

③資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

- ・ 学生定員及びこども園園児定員確保の継続により、学生生徒等納付金収入及び補助金収入は安定的に推移している。支出面では令和5年度に南館校舎購入に伴い借入を行ったため、借入返済が増加したが、予実管理を適切に行い翌年度繰越支払資金をプラスにさせて、翌年度に向けて資金余力を確保している。
- ・ 経年比較は以下のとおりである。

単位：(百万円)					
科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
収入の部					
学生生徒等納付金収入	918	1,029	1,016	1,000	977
手数料収入	14	11	11	8	12
寄付金収入	10	16	13	11	11
補助金収入	93	314	288	303	417
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	69	16	0	0	0
受取利息・配当金収入	0	0	0	1	2
雑収入	7	19	23	18	7
借入金等収入	0	131	1,080	0	0
前受金収入	196	196	191	205	195
その他の収入	173	191	236	227	241
資金収支調整勘定	△ 233	△ 210	△ 213	△ 206	△ 210
前年度繰越支払資金	408	486	407	466	644
収入の部合計	1,654	2,199	3,051	2,033	2,297
支出の部					
人件費支出	555	597	702	743	751
教育研究経費支出	246	322	251	258	335
管理経費支出	109	116	100	67	71
借入金等利息支出	1	1	15	18	16
借入金等返済支出	14	14	58	66	61
施設関係支出	45	516	1,210	6	7
設備関係支出	84	55	18	32	39
資産運用支出	0	0	0	0	0
その他の支出	209	238	262	257	289
資金支出調整勘定	△ 94	△ 68	△ 32	△ 57	△ 26
翌年度繰越支払資金	486	407	466	644	753
支出の部合計	1,654	2,199	3,051	2,033	2,297

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

- ・ 教育活動資金収支差額はプラスの状態、教育活動収入で資金を賄っており経常的活動は安定している。経年比較は以下のとおりである。

(単位：百万円)						
		令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
資金収支 教育活動による	教育活動による資金収支					
	教育活動資金収入計	1,037	1,163	1,342	1,341	1,425
	教育活動資金支出計	909	1,036	1,053	1,068	1,156
	差引	129	127	289	274	269
	調整勘定等	△ 2	4	△ 38	36	△ 48
	教育活動資金収支差額	127	132	251	310	221
よる資金収支 施設整備等活動に	施設整備等活動による資金収支					
	施設整備等活動資金収入計	13	227	9	0	0
	施設整備等活動資金支出計	108	572	1,229	38	47
	差引	△ 95	△ 344	△ 1,220	△ 38	△ 47
	調整勘定等	0	0	0	△ 21	0
	施設整備等活動資金収支差額	△ 95	△ 344	△ 1,220	△ 59	△ 47
小計(教育活動資金収支差額+ 施設整備等活動資金収支差額)		32	△ 213	△ 969	251	174
よる資金収支 その他の活動に	その他の活動資金収入計	227	330	1,298	213	228
	その他の活動資金支出計	181	197	269	286	292
	差引	46	133	1,029	△ 73	△ 64
	調整勘定等	0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	46	133	1,029	△ 73	△ 64
支払資金の増減額(小計+その他の 活動資金収支差額)		78	△ 80	60	178	110
前年度繰越支払資金		408	486	406	466	643
翌年度繰越支払資金		486	406	466	644	753

ウ) 財務比率の経年比較

(単位：%)					
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動資金 収支差額比率	12.6	11.3	18.7	23.1	15.5

(2) その他

①資産運用の状況

- ・元本保証の預金にて安全運用を実施している。

本年度の運用状況：貸借対照表計上額、定期預金 265,558,427 円

②学校債の状況

該当なし

③寄付金の状況

・寄付金の内容

本年度寄付金額

後援会より 11,112,500 円

④補助金の状況

・補助金の内容

・国庫補助金

本年度補助金額

経常費補助金 115,686,000 円

高等教育修学支援補助金 109,618,100 円

・長野市からの補助金（こども園）

本年度補助金額

市費補助金 2,767,699 円

施設型給付費 189,160,410 円

⑤収益事業の状況

- ・大学附属整形外科リハビリクリニックを医療業として、別途運営している。

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

- ・毎年度の経常的な収支は安定している。但し令和5年度に校舎購入に伴う借入を実施したことにより、外部負債が運用資産を上回っており、長期的な収支均衡の改善が課題である。
- ・長期的な収支均衡の改善に向けて、学生の定員確保により収入を安定させ、支出面では資金余力の範囲内で教育設備の充実に比重を置いてきた。
また、毎年度積立を実施して資産の増加を図っている。
- ・今後は、引続き学生定員の確保と積立を継続することにより負債の早期減少を図り、長期的な収支均衡を改善させていく。

IV 学校法人の業務の適正を確保するための体制の整備及び運用状況の概要

(1) 関係する決議の概要

令和6年11月の理事会において、理事の職務執行が法令、寄附行為に適合し、学園の業務執行が適正に行われることを確保するための「内部統制システム基本方針」を決定し、令和7年4月1日より施行している。

組織が守るべき行動規範を示した統治指針である本学のガバナンスコードについて、私立学校法の改正を踏まえて内容を見直し、7年9月の理事会において改訂を行った。

(2) 体制整備及び運用状況の概要

① 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為、施行細則及び文書取扱規程に基づき、適切に作成、保存及び管理する旨を、内部統制システム基本方針に規定している。

② 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理規程を定め、様々なリスクへの事前対策、緊急時の対策及び復旧対策を迅速かつ的確に行い、学園の関係者の安全確保を図るとともに、学園の社会的な責任を果たすため、リスクの影響度に応じて必要な対策等を講ずることを規定している。

③ 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

寄附行為施行細則で、理事は法令、寄附行為及び学園が定める規程等を遵守し、誠実に職務遂行し、協力して、寄附行為に定める学園の目的の遂行に寄与すべき旨を規定している。

④ 職員の職務が法令及び定款に適合することを確保するための体制

コンプライアンスの推進に関する規程で、役職員等は、業務の遂行、会計事務の執行等に当たり、法令、寄附行為等の諸規程を遵守し、倫理及び社会規範を尊重するものとし、不正行為を行ってはならない旨、及び、学園に甚大な損害を与えるおそれや法令、寄附行為その他の規程等に著しく反する行為を知り得たときは、理事長等に報告する旨を規定している。

⑤ 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制等

寄附行為施行細則で、監事は、業務監査、財産状況の監査及び理事の業務執行状況の監査を行うとともに、学園の健全な経営と発展のために学校運営全般にわたる監査を行う旨を規定するとともに、監査の方法や監事の基本的姿勢等についての詳細を定めている。

保健科学部リハビリテーション学科
理学療法学専攻：入学定員40名

試験区分	募集人員	試験日	出願総数	受験者総数 (a)	合格者 (b)	うち第2・3 志望合格	追加合格者	倍率 (a)/(b)	入学者	(うち女子)
学校推薦型選抜指定校制		11月15日	8	8	8	0	0	1.0	8	2
学校推薦型選抜公募制	計16	11月15日	32	32	11	0	0	2.9	11	3
総合型自己推薦Ⅰ期		4	12月13日	20	19	13	0	1.5	12	4
一般選抜Ⅰ期	12	2月1日	30	30	16	0	0	1.9	11	6
一般選抜Ⅱ期	4	2月21日	5	5	1	0	0	5.0	0	0
一般選抜共通テスト利用Ⅰ期	4	1月17・18日	34	34	18	0	0	1.9	3	1
一般選抜共通テスト利用Ⅱ期	若干名	1月17・18日	6	6	2	0	0	3.0	1	1
一般選抜共通テスト利用Ⅲ期	若干名	1月17・18日	2	2	1	0	0	2.0	1	1
総合型自己推薦Ⅱ期	若干名	3月11日	2	2	1	0	0	2.0	1	0
総合型社会人Ⅰ期	若干名	11月15日	0	0	0	0	0	---	0	0
総合型社会人Ⅱ期	若干名	2月1日	0	0	0	0	0	---	0	0
合計	40		139	138	71	0	0	2.1	48	18

作業療法学専攻：入学定員40名

試験区分	募集人員	試験日	出願総数	受験者総数 (a)	合格者 (b)	うち第2・3 志望合格	追加合格者	倍率 (a)/(b)	入学者	(うち女子)
学校推薦型選抜指定校制		11月15日	12	12	12	0	0	1.0	12	12
学校推薦型選抜公募制	計16	11月15日	24	24	18	6	0	1.3	18	12
総合型自己推薦Ⅰ期		4	12月13日	12	11	5	1	2.2	4	2
一般選抜Ⅰ期	12	2月1日	18	18	9	2	0	2.0	3	3
一般選抜Ⅱ期	4	2月21日	4	4	1	0	0	4.0	0	0
一般選抜共通テスト利用Ⅰ期	4	1月17・18日	27	27	16	0	0	1.7	6	4
一般選抜共通テスト利用Ⅱ期	若干名	1月17・18日	6	6	1	0	0	6.0	0	0
一般選抜共通テスト利用Ⅲ期	若干名	1月17・18日	1	1	1	0	0	1.0	0	0
総合型自己推薦Ⅱ期	若干名	3月11日	1	1	1	0	0	1.0	1	0
総合型社会人Ⅰ期	若干名	11月15日	0	0	0	0	0	---	0	0
総合型社会人Ⅱ期	若干名	2月1日	0	0	0	0	0	---	0	0
合計	40		105	104	64	9	0	1.8	44	33

リハビリテーション学科合計			244	242	135	9	0	1.9	92	51
---------------	--	--	-----	-----	-----	---	---	-----	----	----

看護学部看護学科：入学定員80名

試験区分	募集人員	試験日	出願総数	受験者総数 (a)	合格者 (b)	うち第2・3 志望合格	追加合格者	倍率 (a)/(b)	入学者	(うち女子)
総合型選抜A0方式	8	10月18日	20	20	19	0	0	1.1	18	15
学校推薦型選抜指定校制		11月15日	23	23	23	0	0	1.0	23	21
学校推薦型選抜公募制	計24	11月15日	11	11	8	0	0	1.4	8	6
総合型自己推薦Ⅰ期		8	12月13日	14	14	11	0	1.3	7	5
一般選抜Ⅰ期	24	2月1日	38	37	28	0	0	1.3	14	11
一般選抜Ⅱ期	8	2月21日	4	4	2	0	0	2.0	1	1
一般選抜共通テスト利用Ⅰ期	8	1月17・18日	77	77	65	0	0	1.2	14	10
一般選抜共通テスト利用Ⅱ期	若干名	1月17・18日	5	5	4	0	0	1.3	0	0
一般選抜共通テスト利用Ⅲ期	若干名	1月17・18日	3	3	2	0	0	1.5	0	0
総合型自己推薦Ⅱ期	若干名	3月11日	1	1	0	0	0	---	0	0
総合型社会人Ⅰ期	若干名	11月15日	0	0	0	0	0	---	0	0
総合型社会人Ⅱ期	若干名	2月1日	0	0	0	0	0	---	0	0
合計	80		196	195	162	0	0	1.2	85	69

保健科学部・看護学部総合計			440	437	297	9	0	1.6	177	120
---------------	--	--	-----	-----	-----	---	---	-----	-----	-----

※出願者・受験者には第2・3志望者も含む

※倍率は指定校推薦を除く

《参考》 令和7年度 医療機関就職先一覧

令和8年5月1日現在

都道府県名	事業所名	理学療法	作業療法	看護	計
長野県	相澤病院	1	2	2	5
	浅間南麓こもろ医療センター	2	1		3
	安曇野赤十字病院			1	1
	飯田病院	1			1
	飯田市立病院			1	1
	飯山赤十字病院			1	1
	伊那中央病院			1	1
	上田整形外科内科	2			2
	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター	1	1		2
	笠間整形外科病院	1			1
	上山田病院	1			1
	川西赤十字病院	1			1
	桔梗ヶ原病院		1		1
	輝山会記念病院	2			2
	北アルプス医療センター	3			3
	栗田病院	1	1		2
	国保 依田窪病院			1	1
	国立病院機構信州上田医療センター			2	2
	こども病院			2	2
	佐久医療センター	1	1		2
	佐久総合病院			2	2
	信濃医療福祉センター		1		1
	篠ノ井総合病院			7	7
	昭和伊南総合病院			1	1
	信州大学医学部附属病院			4	4
	新生病院	1	2		3
	諏訪共立病院	1	2		3
	諏訪中央病院	1			1
	竹重病院		2		2
	千曲中央病院	4	1	1	6
	豊科病院		1		1
	長野市民病院		1	4	5
	長野赤十字病院	2		12	14
	長野中央病院	2		2	4
	南信病院		1		1
	北信総合病院		2		2
	まつもと医療センター			2	1
	松本協立病院		1	1	2
	松本市立病院		1		1
	松本中川病院		2		2
丸子中央病院	1			1	
丸の内病院		1		1	
リーベ まつかわ			1	1	
介護老人保健施設 すめらぎ		1		1	
県内 計		29	26	48	103

都道府県名	事業所名	理学療法	作業療法	看護	計
山梨県	甲州リハビリテーション病院		1		1
	湯村温泉病院		1		1
埼玉県	イムス富士見総合病院			1	1
	川越リハビリテーション病院	1			1
	国立埼玉病院	1			1
	国立東埼玉病院	1	1		2
	埼玉医科大学総合医療センター			1	1
	埼玉セントラル病院	1			1
	埼玉県庁（保健師）			1	1
	埼玉県立病院機構			1	1
	タムスさくら病院川口		1		1
	TMGあさか医療センター			1	1
	戸田中央総合病院			1	1
	東松山病院		1		1
東京都	おくさわ脳卒中リハ病院	2			2
	大森赤十字病院			1	1
	関東中央病院			1	1
	国立東京病院	1			1
	高島平中央総合病院			1	1
	立川病院			1	1
	東京科学大学病院			1	1
	東京小児療育病院			1	1
	東京大学医学部付属病院			1	1
	東京臨海病院			1	1
	東邦大学医療センター大森病院			1	1
	都立大整形外科	1			1
	ひらの整形外科	1			1
	明大前整形外科	1			1
神奈川県	新百合ヶ丘総合病院			1	1
	神奈川県立がんセンター			1	1
	済生会横浜市東部病院			1	1
	横浜市立市民病院			1	1
	横浜新都市脳神経外科病院	1			1
	横浜新緑総合病院		1		1
	横浜鶴見リハビリテーション病院		1		1
	横浜なみきりリハビリテーション病院		1		1
新潟県	新潟県厚生連新潟医療センター	1			1
千葉県	松戸リハビリテーション病院		1		1
	津田沼中央総合病院	1			1
	船橋市立リハビリテーション病院	1			1
茨城県	国立水戸医療センター		1		
合計		43	36	67	146

医療機関以外就職先または進学

都道府県名	事業所名または進学先	理学療法	作業療法	看護	計
長野県	一般事務職		1		
	上越教育大学大学院（進学）			1	1
	神戸市看護大学大学院（進学）			1	1

令和7年度 川中島こども園 事業報告

1 教育・保育概要

令和5年4月、本園は保育園から幼保連携型認定こども園へと移行し、3年目を迎えました。小学校就学前の子どもたちが、本園の教育・保育理念を礎として、私たちが掲げる「5つの育ってほしい子どもの姿」を体現できるよう、さまざまな事業を展開しました。

2 教育・保育の体制等

(1) 職員体制

園長	1人	栄養士	1人
副園長	1人	調理士	7人
主幹保育教諭	2人	内 嘱託職員	1人
保育教諭	27人	内 臨時職員	6人
内 正規職員	9人	事務員	1人
内 嘱託職員	6人	用務員	2人
内 臨時職員	12人	合計	42人

(2) 利用者等状況

[単位:人]

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児		4歳児		5歳児		3号	2号	1号	合計
	3号	3号	3号	1号	2号	1号	2号	1号	2号	認定児	認定児	認定児	
定員	6	10	14	5	20	5	20	5	20	30	60	15	105
4月	6	15	18	6	22	5	22	3	22	39	66	14	119
8月	9	15	18	6	22	7	21	3	22	42	65	16	123
3月	9	15	18	6	22	7	21	4	21	42	64	17	123

※園児数に対する保育教諭配置基準

0歳児 園児3人：保育教諭1人
 1歳児 園児5人：保育教諭1人
 2歳児 園児6人：保育教諭1人
 3歳児 園児15人：保育教諭1人
 4・5歳児 園児25人：保育教諭1人

(3) 教育・保育提供日及び時間

ア 教育・保育提供日

開園日数	教育利用	218日	
	保育利用	277日	
1学期 4月1日～7月25日	教育利用	81日	夏休み…7月26日～8月17日
	保育利用	109日	
2学期 8月18日～12月25日	教育利用	87日	冬休み…12月26日～1月4日
	保育利用	105日	
3学期 1月5日～3月19日	教育利用	50日	春休み…3月20日～3月31日
	保育利用	63日	

イ 教育・保育時間

- 教育標準時間 : 午前 8 時30分 ~ 午後 4 時30分
- 保育短時間 : 午前 8 時30分 ~ 午後 4 時30分
- 保育標準時間 : 午前 8 時30分 ~ 午後 6 時30分

ウ 預り保育・延長保育

- 預り保育 (1号認定) 延べ 4 2 4 回
- 延長保育 (2号・3号認定児) 延べ 4 7 回

3 教育・保育の展開

(1) 教育・保育環境の整備

ア 在園児数の確保(経過)

安心して子どもを預けることができる環境を整えるため、教育・保育ニーズを把握し、適正な利用園児数の確保に努めた。

イ 在園児数の推移

	定員	5年度	6年度	7年度
1号認定	15人	6人	16人	17人
2号認定	60人	66人	60人	64人
3号認定	30人	38人	39人	42人
合計	105人	110人	115人	123人

ウ オープンキャンパス… 7月11日・8月8日 参加者 29組

エ 園見学…15回 参加者 57組

オ おひさま広場 5月～2月 38回 参加子ども数 326人 世帯 305組 (延べ数)

カ INC園紹介番組放映 (クラスマッチ・運動あそび) 10月・3月

キ ホームページ 随時更新

(2) 保育教諭等人材の確保

施設の受容状況及び利用希望を踏まえて、子どもの年齢に応じたきめ細かな教育・保育の実践と子どもの安全・安心を確保し、即時柔軟に対応できよう職員の確保に努めた。

ア 私立保育協会主催合同就職説明会… 5月10日 (土) シャトレゼホテル

- ・長野市立保育園ほか私立保育所・こども園 39園
- ・清泉大学短期大学部・文化学園大学保育専門学校ほか学生等 59人

イ 県社会福祉協議会主催保育のお仕事就職相談会 (保育士さんいらっしゃい)

- ・12月6日 長野市ふれあい福祉センター
- ・ハローワーク、長野市立・千曲市立保育園ほか9法人

ウ ハローワーク求人情報掲載

エ 福祉のお仕事 (保育士) 求人情報掲載

オ ホットパル手箱パート職員求人情報掲載 (5月20日号 1回)

カ 保育実習…長野県立大学ほか3校 4人

(3) 教育・保育の質の確保と向上

ア 保育教諭の資質向上

- 研修の充実

種 別		人数	内 容
職場外研修	市・主催研修	6	救急法講習会、給食担当者研修など
	県・国（省庁）主催研修	3	魅力ある園・BCP・マネジメント研修など
	私立保育協会主催研修	10	園長研修、スマイル研修など
	全国・県保育連盟等主催研修	4	理事長・所属長研修
	各種団体等主催研修	14	日本保育協会、
	キャリアアップ研修	58	専門リーダー等養成研修
OJT（職場研修）		15	嘔吐処理、感染症、危機管理研修
合 計		110	

イ 教育・保育活動の柔軟的な対応

- ノンコンタクトタイム導入
 - ・子どもと直接関わらず、保育以外の業務に専念する時間を確保することで、教育・保育の質の改善に努めた
- アクティブタイムの導入
 - ・子ども達が自分で選び、考え、試し、対話しながら活動する時間を設けた
- 相撲の日
 - ・月に一度、腕相撲などの対戦を通じて相撲の礼儀や規律正しい姿を学ぶ
 - ・子ども達は、勝ってもおごらず、負けてもくじけず、相手を思いやる心を育てる
 - ・礼に始まり礼に終わる相撲を通して、心と体の成長を感じられる大切な時間
- 食育教育・・・毎月19日を「食育の日」と設定し、食育教育の展開

ウ 外部講師

- ネイティブスピーカーによる英語教育（40分）
 - ・契約教室：IDEA英語教室
 - ・実施回数：年長児…20回/年、年中児…20回/年
- 長野体育指導センター（NPIC）の体育教室（各60分）
 - ・年齢、成長に応じマット、鉄棒、ボール、跳び箱、縄運動の実施
 - ・実施回数：年長…19回/年、年中…19回/年
- 朗読ボランティアによる2歳児以上を対象に、絵本の読み聞かせ
 - ・4月25日、6月25日、7月25日、9月17日、11月21日、3月6日 6回
- 地域ボランティア
 - ・おひさま広場で未就園保護者に対するに子育て支援の実施。

エ 教育・保育のDX（デジタルトランスフォーメーション）対応

- コドモンの活用…令和5年10月導入し、園の教育・保育の質を高め、業務を効率化し、子ども・保護者・職員すべてにとってより良い環境の構築（登降園管理、保護者間相互連絡、保護者一斉配信、職員間連絡、保育計画など）

4 長野保健医療大学連携

(1) 2. 3歳児の運動遊び

- ・体を動かす楽しさを味わいながら、発達に必要な動きを自然に身につけることが最大のねらいです。この時期の子どもは、走る・跳ぶなどの基本的な動きを繰り返しながら、身体のコントロール力やバランス感覚を育てる

(2) 看護学部3年生の母性看護学実習の受入れ

- ・受入期間：令和7年9月1日～令和7年12月19日
- ・受入学生：73人

(園の日常生活で子どもの発達・健康・集団生活などの姿を学ぶ)

(3) おひさま広場講師等の派遣

*子育て支援と知識をつなぐ学びの交流

- ・保護者にとって、子どもの発達段階や関わり方を専門家から学べること、気軽に相談できることで育児の不安が軽減される
- ・子どもにとって、同年代の子どもと遊ぶことで社会性が育つ、大学の講師と関わることで多様な刺激を受ける、安心できる環境で遊びながら発達を促す機会になる

5 安全教育

(1) 避難訓練等

想定災害	実施月
火災	4月、5月、8月、10月、11月（消防署立会）、12月、2月、3月
地震	6月、9月、1月
洪水	7月

(2) 交通安全教室 5月21日(月)

講師：「一般社団法人 長野県自動車販売店協会」

目的：園児が安全に道路を横断するための基本的なルールを身につける

- ・園庭に交差点や横断歩道を模したコースを設置
- ・信号の見方、手を挙げて渡る、左右確認などの実践練習など

(3) 引渡し訓練 6月12日(木)

目的：大雨洪水警報による「警戒レベル3（高齢者等避難）」発令時を想定。

- ・園児の安全確保後、保護者への引き渡し手順を確認
- ・引渡し場所・動線・職員配置の確認
- ・保護者との連絡方法や受付手順の確認
- ・想定災害時の園内アナウンスや誘導の確認

(4) 防犯訓練

目的：不審者など侵入に際し園児等の安全確保を最優先

- ・職員が取るべき対応の統一事項を確認
- ・不審者対応マニュアルの再確認
- ・通報手順、避難経路、園児の安全確保など

6 子育て支援・地域関連

(1) 保護者との連携

ア 保護者等参観

- ・全てのクラスで「参観日」を設け、園と家庭、子どもを繋ぐ大事な行事の他、運動会やお楽しみ会にも参加

イ 保護者が園児と一緒に過ごす「保育の日」

- ・園児の安心と成長、保護者の理解、園の信頼づくりを実現できた取組み

ウ 園だよりの発行

- ・園の様子など毎月1日付で配信し情報提供に努めた

エ 保護者会

- ・「クリスマスのプレゼント」や「卒園児へのプレゼント」など、園と保護者と一緒に子どもの成長を祝う取り組みなどを行った

オ 地域ボランティア等

- ・おひさま広場で未就園保護者に対するに子育て支援の実施
 - 7月 多肉植物の寄せ植え
 - 9月 朗読ボランティアによる本の読み聞かせ
 - 12月 正月飾り作り

カ 課外教室

- ・(株) E C Cが展開する課外英語教室 : 火曜日午後4時～午後5時の間、子育て支援室・多目的室を開放
参加園児: 年長児・年中児 計6人 (年間レッスン回数43回)
- ・(株) 学研エデュケーショナル 水曜日午後4時～午後5時 年間「幼児学習指導」ひとり一人の子供が持つ才能と個性を大事に育て伸ばす
参加: 年中児・年少児 計6人 (年間レッスン回数41回)

(2) 食育教育・保育

○毎月19日を「食育の日」

- ・栄養士による紙芝居などの読聞かせ、・食材下処理(玉ねぎ)の手伝い(3学期)

月 日	内 容	備 考
4月18日	給食室見学	幼児各クラス単位
5月19日	三色食品群について	年中
7月24日	ピザ作り	年長・年中(園畑で栽培した野菜を活用)
10月27日	お箸の持ち方	幼児
11月4日	干し野菜を作ってみよう	幼児
11月19日	だしを味わう	年長(昆布、鰹節、しいたけ三種のだし汁を試飲)
12月22日	郷土食を味わう	幼児(ほうとう)
1月27日	ちゃんこ鍋作り	年長 鍋づくりの手伝い(キノコ、野菜をちぎる)
2月5日	ゴマすり	2歳児 すり鉢でゴマすり体験

○かみかみ週間 6月16日～20日、12月15日～19日(年2回実施)

(3)おひさま広場の充実

5月～2月毎週火曜日

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年
開催回数		—	3	4	5	3	4	4	4	4	3	4	—	38	40
育児相談件数		—	7	2	8	4	4	2	0	5	2	2	—	36	19
参加者数	保護者	—	22	25	39	22	48	49	26	34	10	30	—	305	326
	内父親		2	2	3	1	7	5	2	1	2	1		26	40
	未就園児	—	21	31	44	24	46	50	28	39	9	34	—	326	370

(4)園開放概要

月 日	内 容	月 日	内 容
5月13日	こども園で遊ぼう	10月7日	すもうの日を楽しもう
5月20日	種まき苗植えを体験しよう	10月21日	ハロウィングッズを作ろう
5月27日	大学連携事業「健康相談①」	10月28日	大学連携事業「健康相談②」
6月3日	散歩に出かけよう	10月31日	ハロウィンを楽しもう
6月10日	シャボン玉で遊ぼう	11月5日	やきいも会
6月17日	大学連携事業「体の不調改善①」	11月11日	体重測定
6月24日	体重測定	11月18日	手作り楽器を楽しもう
7月1日	栄養士の栄養相談	11月25日	大学連携事業「体の不調改善③」
7月8日	多肉植物寄せ植え	12月2日	大学連携事業「健康相談③」
7月15日	水遊び バンブースライダー	12月16日	クリスマスグッズ作り
7月22日	大学連携事業「健康相談②」	12月19日	クリスマス会
7月29日	野菜スタンプ	12月23日	正月飾り作り
8月5日	水遊び バンブースライダー	1月13日	正月遊びを楽しもう
8月19日	大学連携事業「発達相談①」	1月20日	手作りおもちゃで楽しもう(中止)
8月26日	体重測定	1月27日	大学連携事業「発達相談②」
9月2日	園長講話「防災の話」	2月3日	豆まき
9月9日	朗読ボランティア読み聞かせ	2月10日	バスボム作り
9月16日	体重測定	2月17日	大学連携事業「体の不調改善④」
9月30日	大学連携事業「体の不調改善②」	2月24日	体重測定

(5)子育て相談 「総数32件」主な内訳

- ア 食事やマナーについて ・離乳の方法・離乳食の作り方など 4件
- イ 排泄自律について ・オムツかぶれ・トイレトレーニングなど 3件
- ウ 生活習慣について ・衣服の脱着・行動が遅い・歯磨きなど 2件
- エ 心身の発達について ・首の座り・はいはいをしない・歩行の遅れなど 2件
- オ しつけについて ・乱暴・わがまま・反抗・自我の芽生えなど 2件
- カ 入所について ・入園・一時預かり・日曜祝日の子どもの預かりなど 13件

7 各月の主な行事等

- 4月 入園式、始業式、新入児歓迎会、幼児組交通安全教室
 - 5月 歩き遠足（幼児）、ちびっこすもう、内科健診、歯科検診
 - 6月 幼児保育参観、お話し会、プール開き
 - 7月 お話し会、七夕まつり、夏まつり、終業式
 - 8月 お話し会、始業式 プール閉じ オープンキャンパス
 - 9月 未満児保育参観、幼児祖父母参観
 - 10月 バス遠足、内科健診、歯科検診、クラスマッチ
 - 11月 消防署立会による避難訓練、未満児保育参観、やきいも会、
 - 12月 幼児楽しみ会、お話し会、クリスマス会、終業式
 - 1月 始業式、どんど焼き、正月遊び
 - 2月 節分、お話し会
 - 3月 ひなまつり、新年度入所説明会、お別れ会、卒園式
- *誕生日会、避難訓練は毎月実施
- *薬剤師による安全衛生点検（年4回程度）

8 令和8年度 川中島こども園入所者数

4月1日現在

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計	教育標準	保育短	保育標準
入所者数	6	15	18	25	27	26	117	8時間	8時間	11時間
内 新規	6	7	3	9	0	0	25	18	16	83
内 継続	0	8	15	16	27	26	92			

*この内教育利用者は、3歳児5名 4歳児7名 5歳児6名 計18名

令和7年度 大学附属整形外科リハビリクリニック 事業報告

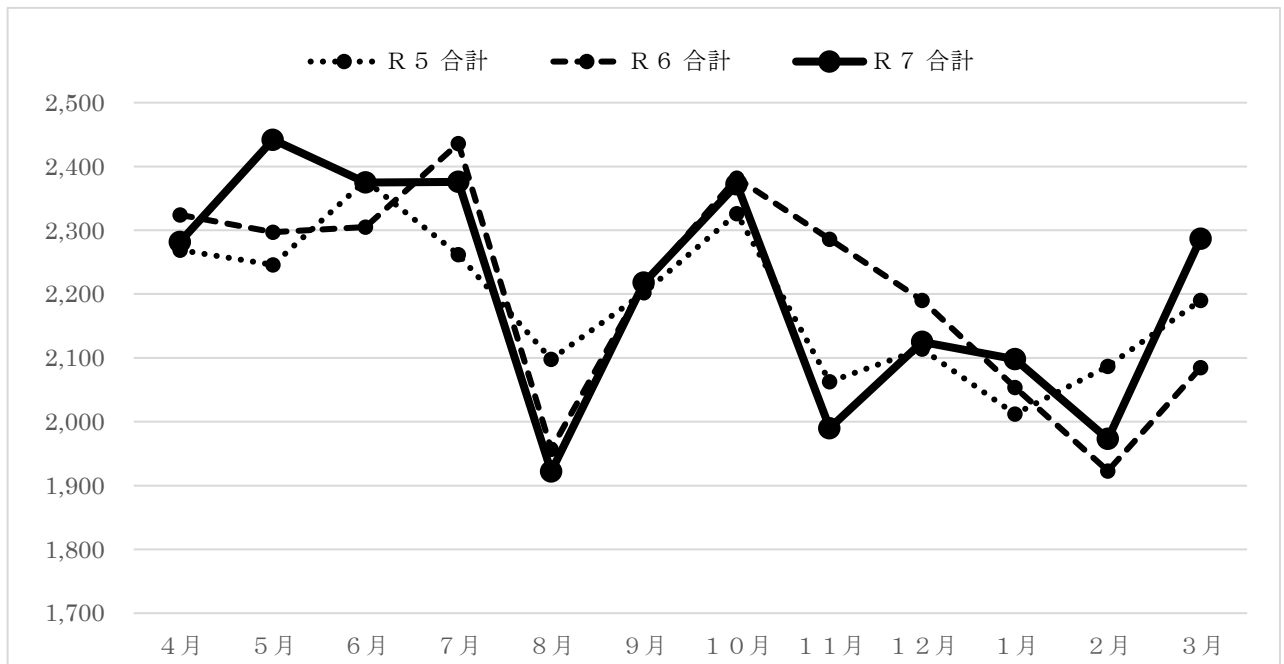
1 事業総括

○ 患者・利用者状況につきましては、医療事業で20,996人（前年度比101.8%）、介護事業では5,464人（前年度比93.7%）、累計では26,460人（前年度比100%）で前年度より5人増でありました。前年度より、介護事業における通所リハビリショートの利用者が438人と大きく減となりましたが、整形外科において544人の患者増となったことにより、累計では前年度を上回る受診者確保ができました。

決算状況は、収入が140,541千円（前年度比102.1%）、支出が130,806千円（前年度比101.1%）であり、当期純利益は9,736千円（前年度比116.8%）で、前年度より1,400千円の増益となりました。

○ 令和7年度、元入金10,000,000円を大学に返済した。これにより、大学に対しての回収対象元入金総額43,116,833円を5年間で完済した。

患者・利用者総数（過去3年間）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
R5 合計	2,269	2,246	2,378	2,262	2,098	2,202	2,326	2,063	2,114	2,012	2,087	2,190	26,247
R6 合計	2,324	2,297	2,305	2,436	1,957	2,216	2,382	2,286	2,190	2,054	1,923	2,085	26,455
R7 合計	2,282	2,442	2,375	2,376	1,922	2,218	2,372	1,990	2,125	2,098	1,973	2,287	26,460

計画対比・前年度実績対比

（千円）

	令和7年度実績	令和7年度計画	計画対比	令和6年度実績	前年度対比
収入	140,541	136,350	103.1%	137,686	102.1%
支出	130,806	135,410	96.6%	129,350	101.1%
利益	9,736	940	1035.7%	8,336	116.8%

2 実習生等の受入れ

・長野保健医療大学よりの実習生受入状況 () は前年度受入れ人数

理学療法学専攻	合計	6名(6名)	作業療法学専攻	合計	4名(3名)
・臨床評価実習(2年次)	1名	(1名)	・臨床評価実習(2年次)	1名	(1名)
・臨床評価実習(3年次)	1名	(1名)	・臨床実習(4年次) I・II期	2名	(1名)
・臨床実習(4年次) I・II期	2名	(2名)	・臨床実習(3年次)	1名	(1名)
・地域理学療法実習(4年次)	2名	(2名)			

・川中島中学校の2年生2名が職場体験実習

3 保健予防活動

○インフルエンザ予防接種 合計 412名

- ・長野保健医療大学教職員 37名、長野保健医療大学学生 240名
- ・川中島こども園職員 26名、ケアハウス南長野職員 22名
- ・ケアハウス南長野入居者 19名、グリーンヒル職員 30名
- ・グリーンヒル中央館職員 13名、クリニック職員 15名
- ・その他 10名

○感染症抗体検査

長野保健医療大学学生・院生・教職員 177名

○ケアハウス南長野入所者結核検診 73名

4 施設整備

- ・医用画像システム(更新)
- ・電子カルテメディカルステーション(更新)
- ・リハカルテ互換ソフト入替PC(新規)
- ・コピー機(更新)
- ・LED化工事(令和8年度と分けて)

5 広報活動

- ・ホームページにおいて、毎月の診療担当表、介護事業の空き状況や各種お知らせ等、適時更新を図った
- ・クリニック通信を4回発行し各施設へ配布した

6 研修会、講習会への積極的参加

下記、研修会に参加し個々のスキルアップを図った。

- ・吉田地区転倒予防講座 講師派遣(計7回)
- ・業務継続計画(BCP見直し)研修
- ・長野保健医療大学臨床実習指導者会議
- ・院外講師による合同講習会
- ・地域ケア会議(2回)
- ・保険医療福祉関係者研修会「感染症対策」
- ・虐待事故防止対策セミナー
- ・令和7年度保険診療講習会